

分詞の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：6つの型を運用し、知覚動詞のうしろの形のちがいを自分の英文で使い分けられる

入試へ挑むクラス 偏差値のめやす 60以上 SVOC・have+O+過去分詞まで見ます (確認は4択)

気づき AとB、どちらも bore (退屈させる) から作った形。何が違う？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	The movie was boring.
B	I was bored during the movie.

-ing は「まわりをそうさせる」側、過去分詞は「そうさせられた」側。だから I was boring. と書くと「わたしは (人を) 退屈させる人間だ」になってしまいます。分詞は**形容詞のはたらき**で、見分ける手順はいつも同じ—その**名詞は「している」のか「されている」**のか。a sleeping baby (眠っている赤ちゃん) と a broken window (割られた窓) も、同じ問いで決まります。

整理 分詞の6つの型 (高校範囲の骨組み)

形	作り方	表すこと	例文
名詞の前から	分詞I語 + 名詞	している／されている	Don't touch the broken glass. 割れたガラスにさわらないで。
名詞のうしろから	名詞 + 分詞 + 語句	語句がつくと、うしろへ回る	The boy running over there is my brother. 向こうで走っている少年はわたしの弟だ。
感情を表す分詞	be + -ing／be + 過去分詞	させる側／させられた側	I was excited by the game. その試合にわくわくした。
主語の説明 (SVC)	S + sit / stand / keep + 分詞	主語がどうしているか	He sat surrounded by his friends. 彼は友だちに囲まれて座っていた。
目的語の説明 (SVOC)	see / hear / find + O + 分詞	Oがしている／されている	I heard my name called. 名前が呼ばれるのが聞こえた。
have / get + O + 過去分詞	have / get + O + 過去分詞	～してもらう・～される	I got my watch fixed at the station. 駅で時計を直してもらった。

知覚動詞のうしろは**原形**と -ing で見えた場面が変わります—I saw him cross the street. (渡りきるまで) / crossing (途中)。受け身では原形に to が戻ります (He was seen to cross ...)。have+O+過去分詞は「してもらう」と「される (被害)」の両方で、どちらかは場面が決めます。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) This is a letter (writing / wrote / to write / written) in French.
- (2) I found a cat (slept / sleeping / sleep / to sleep) on the roof.
- (3) I had my bike (repair / repairing / repaired / to repair) at the shop.
- (4) He sat (surrounding / surrounded / surround / to surround) by his friends.
- (5) I saw him (cross / crossed / crossing / to cross) the street safely.

分詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	written	letter は「書かれた」側。write-wrote-written の3つ目を使う。
(2)	sleeping	a cat が「眠っている」=目的語の説明。find のうしろは原形不可。
(3)	repaired	my bike は「直される」側。have+0+過去分詞で「直してもらう」。
(4)	surrounded	he は「囲まれた」側。sit / stand / keep のあとに来る主語の説明。
(5)	cross	知覚動詞のうしろは 原形も来る =渡りきるまで。crossing は「途中」。

つまずき① I was boring. と書いてしまう

感情を表す動詞 (bore / excite / surprise / interest / move / tire) は、**-ing が「させる側」、過去分詞が「させられた側」**です。人が「退屈した」なら過去分詞。日本語では両方「退屈だ」なので、ここが最も多い誤りになります。**ものが主語なら-ing、人が主語なら過去分詞が目安**ですが、根っことは「している／されている」ひとつです。

× I was very boring at the party. → ○ I was very bored at the party.

I was boring. は「わたしは人を退屈させる人間だ」。ほめ言葉のつもりで使わないよう、一度だけ笑わせて印象に残す。

つまずき② I語なら前、語句がつけばうしろ

分詞がI語だけなら名詞の**前** (a sleeping baby)、語句を連れているなら名詞の**うしろ** (a baby sleeping in the next room)。日本語は全部を前に置くので、そのまま英語にすると崩れます。

× The playing the guitar boy is my friend. → ○ The boy playing the guitar is my friend.

the guitar という語句がつくので、かたまりごと名詞のうしろへ回る。

つまずき③ 分詞のかたまりを文だと思ってしまう

The boy running in the park は**まだ主語のかたまりで、文ではありません**。読むときは「うしろに動詞が来る」と待ち構え、書くときは「この文の動詞はどれか」を最後に確かめます。

× The boy running in the park. → ○ The boy running in the park is my brother.

running は boy の説明。文の動詞は is. / 「走っている」を言いたいだけなら The boy is running in the park.

つまずき④ have+0+過去分詞を「自分でした」と読む

I had my hair cut. は「(美容院で) 切ってもらった」。自分で切ったなら I cut my hair. です。**目的語が「される」側かどうか**で決まります。get でも同じ。「被害」にもなります—I had my bag stolen. (かばんを盗まれた)。

× I cut my hair at the salon last week. → ○ I had my hair cut at the salon last week.

文法は正しいが「自分で切った」ことになる。正しい文でも場面に合わなければ誤り。

つまずき⑤ 過去分詞の形が作れない

内容は分かっているのに、形が作れずに×になる答案が学び直し・基礎固めの帯でいちばん多く出ます。「されている」側は**過去分詞—規則動詞は -ed (repair→repaired)、不規則動詞は3つ目の形 (write-wrote-written / break-broke-broken / take-took-taken)**。誤りの大半は不規則動詞で出ます。分詞は**形が作れて初めて使えます**。

× This is a letter wrote in French. → ○ This is a letter written in French.

過去形 (wrote) でも -ed (writed) でもなく、3つ目の written.

授業のひとつ 前日にこの紙を配り、確認問題まで解いてこさせる反転で使えます。授業は「原形・-ing・過去分詞で見えた場面がどう変わるか」の検討に充てると、この帯の知的負荷に見合います。なお「I語なら名詞の前」には the people involved (関係者) のような決まった例外があります。質問が出たときのために。

